

Hop Step Jump

8

初任者研修第9回

小学校 授業づくり⑤

アンケートの感想から

夏の研修のラストとなる第9回の初任者研修が、8月27日に附属小学校で行われました。今回は児童のみなさんにも協力してもらい実際の授業を見学しました。5時間目が国語(2年3年6年)、6時間目が算数(2年4年5年)。2学期が始まりまだ3日目ですが、低学年から高学年まで、既に内容の濃い授業が行われていました。夏休み明けのやる気に満ちた子どもたちの様子にひたすら感心しました。

一番驚いたことは、授業の始めに、「今日何するかわかる人」という問いかけに対して、たくさんの児童が手を挙げていたことです。その日、その授業で何をするかを、前時を受けてしっかりとつかんでいる証だと思いました。それに加えて、めあてをきちんとつかませて学習させることの大切さも感じました。

子どもたちの語彙の多さや自分の言葉で説明しようとする姿、児童の発言をつなぐ先生の発言。どの授業も児童の言葉で深まっていく。その様子はとても素敵でした。

先生の子どもたちとのやりとりがすばらしいと思いました。「並べかえる」ことで、少しゲーム感覚になって楽しみながら学ぶことができると感じました。子どもたちが自分のことばで一生懸命伝えようとしていたので、私のクラスもそういった雰囲気になるように努力したいとおもいました。ありがとうございました。

子どもたちがすごく試行錯誤しながら意欲的に取り組んでいる授業だなとおもいました。タブレットと電子黒板をつないでいて、すごく子どもも意見を表現しやすいそうだと思います。

ICTの活用や生活とつながる題材、先生自身がお手本となったブックトーク…。先生方は色々な仕掛けを使って、子どもたちを授業に引きこんでいました。しかし、それは子どもたちが学習の目標に行きつくための「手立て」の部分。何よりもその授業で何を教えたいのか。「ねらい」が明確だったのではないのでしょうか。

子どもが夢中になって活動しているのが、とても良いなあとおもいました。何を考えたらいいのか明確なこと、式や図から考えが「見える」ことが、子どもを夢中にさせているなと感じました。ありがとうございました。

そんな「ねらい」を年間、そして6年間の取り組みとして「線」としてつなげていくことが子どもたちの確かな学力の育成につながっています。「なぜそう考えたの?」「その数式の意味は?」すべての教室をまわる中で、個々の授業の「ねらい」が学年を超えて「線」としてつながっていることも私たちは感じました。

板書で、子どもたちの思考のつながりを整理したり、国語の授業づくりについて、年間を通して、単元の中でつけない力を明確にしながら計画を立てることが大切だと感じました。音読の仕方一つでも、たくさんの手立てを考え、ねらいを持たせようと思います。

説明文は指導が難しく、一学期も苦労をしましたが、今日の授業を見てこの説明文で何を一番教えたいのかを明確にしておく必要があると感じました、さらにその中で低学年向けに楽しめるような動作化などの工夫を入れて授業をつくっていきたいと思いました。

子どもの発言が「さすがだな～」と思わされるものが多かったです。自分の学校では同じ授業はできないなと思いました。しかし、その学校の児童の実態に合わせてやっていくと、私の学校でもできるかなと思いました。かまえる→のぞむ→ひらく→ふかめる→ふりかえる これを意識して、今後、算数はとくに難しくなっていくと思うので、がんばっていきたいです。

最後に、みなさんは気がついていましたでしょうか。それは、附属小の先生も一緒になって授業を見学していたという事実です。前回、模擬授業でお世話になった先生方が皆さんに混ざって、同僚の授業から学んでいました。

授業づくりの難しさや楽しさを共有し、同僚から学ぶ姿勢を持った集団であること。つまり学校が『学習する組織』として機能することの大切さを感じました。